

Annual Report
2022
KIRIN KODOMO
OUENDAN

全ての子ども達が
自分の未来に踏み出せる場所を創造する



NPO法人
麒麟こども応援団

2022 年度活動報告書



目次

01	代表理事からのメッセージ	1ページ
02	フードパントリー利用者アンケート結果	2ページ
03	私たちの取り組み	3ページ
①	さのだい子ども食堂キリンの家 職業体験：こどもカフェ Coccha 調理体験：モリウミアスとの連携	4ページ
②	フリースクールキリンのとびら 体験事業：現代国際巨匠絵画展 体験事業：Fill RECO FES 2022(出演)	7ページ
③	オンラインフリースクール Clulu	10ページ
④	キリンフードパントリー	11ページ
⑤	フードバンク泉佐野	12ページ
⑥	こども朝食堂	12ページ
04	メンバーからのメッセージ	13ページ
05	財務報告	14ページ
06	新聞・テレビ等メディア掲載実績	15ページ
07	お願いしたいこと	16ページ

「子ども第三の居場所」とは
キリンこども応援団は日本財団の「子ども第三の居場所」助成を受けて運営しています。
「子ども第三の居場所」は、すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって2016年より全国に開設しています。「子ども第三の居場所」では、特にひとり親世帯や親の共働きによる孤立や孤食、発達特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の喪失など、各々の置かれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。同時に、学校や地域、専門機関と連携し、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」のハブとしての機能を担っていきます。現在全国に152カ所設置され、全国500拠点の開設を目指しています。(2023年3月現在)



代表理事からのメッセージ



日頃より、キリン子ども応援団の活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。
皆様のおかげで、2022年度も活動を継続することができました。

子ども食堂を5年前に立ち上げてから、フードパントリーやフリースクールなど、子ども達や子育て世帯が抱える社会課題の解決に向けて走り続けてきました。

貧困、孤食、虐待、いじめ、自殺・・・。

子ども達を取り巻く社会課題は数多くあり、また子どもを見ただけでは判断ができず、課題は「地下にもぐっている」という表現がピッタリくる時代です。

また昨年10月、文部科学省は不登校の子ども達が過去最高の24万人になったことを発表しました。私たちは、学校に行けていないこと自体ではなく、誰にも繋がることができている子ども達や家庭があることに心を痛めています。

残念ながら、これら全ての社会課題を根底からすぐに解決することは、私たちだけではできません。

しかし、私たちにしかできないことがあります。

それは、「繋がる」ということです。

多くの課題を抱える現代の中で、最も不幸なことは「社会的な孤立」です。

昨年、実施したアンケートでは、16.7%の子育て世帯の方が「頼れる相手はいない」と回答しました。

「人に迷惑をかけてはいけない」そう教えられてきた人こそ、誰にも頼れない。

そうじゃない！苦しいときは誰かに頼ってもいい！大事なことは、生きていくことです。

だからこそ私たちは、「助けてほしい」「繋がりたい」と感じたときに、頼れる存在になりたい。

そのためにも、繋がれる場所である「居場所」が重要だと考えています。

しかし、私たちは神様ではありません。

繋がることができず、自分たちの限界を感じることも日々あります。

それでも、歩み続けます。これが私たちの覚悟です。

今日も、1mmでも社会を進めたい。

そう思って、毎日とびらを開け続けます。

特定非営利活動法人キリン子ども応援団
代表理事 水取 博隆

02 Annual Report

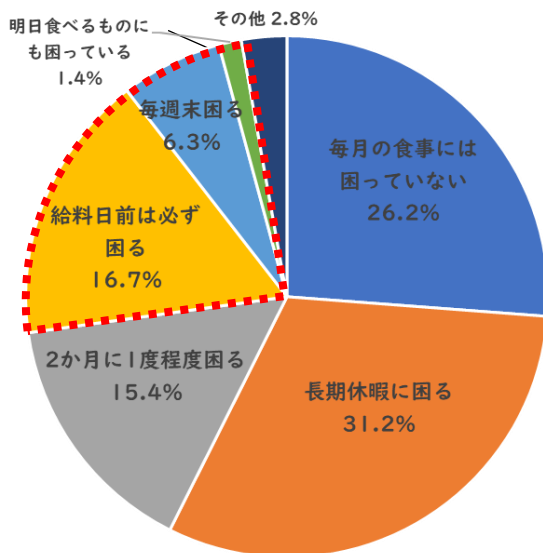
【フードパントリー】利用者アンケート結果

キリンこども応援団では、支援対象者の生活実態を把握し、今後の活動の指標とするため、食材配布の活動であるフードパントリーの利用者へアンケートを実施しました。その結果を抜粋して紹介します。

アンケート概要

実施期間：2022年10月31日～11月4日 回答数：211人

食事における困り度



日々の食事における困り度については全体の74.2%の方が定期的に食事に困るという回答がありました。

特に「給料日前は必ず困る」「毎週末に困る」「明日食べるものにも困っている」という月に1度以上食事に困っている世帯は、全体の24.4%にもものぼるという結果でした。

今後、月に1度のフードパントリー活動とともにより継続的な支援の必要性を感じています。

必要な支援について（複数選択可）

食料などの生活支援	84.6%
子どもの体験支援	60.2%
子どもの学習支援	32.1%
子育て相談	17.2%
仲間づくり	14.9%
その他	

食料支援とともに、子どもの体験支援や学習支援について必要と感じている世帯の方が多いという結果となりました。

これはキリンこども応援団として、「今の支援」である食材支援を継続していく必要性と共に、「未来への支援」である学習格差や体験格差を埋める支援が求められていることが分かりました。

困ったときに頼れる相手（複数選択可）

親・親戚（同居・近居）	60.6%
友人・知人	41.2%
親・親戚（遠方）	21.7%
頼れる相手はいない	16.7%
学校・保育園	14.0%
その他	

「頼れる相手はいない」という回答をされた方が16.7%にもものぼりました。これは子育て世帯や孤立化している現状を如実に表す結果となり、早急な対応が求められます。



03 Annual Report
私たちの取り組み

①子ども食堂キリンの家

開催回数 **229**回

参加者 延べ **3,392**人(前年比 124%)



体験活動

職業体験(こどもカフェ)・調理体験・
宿泊体験・クラシック音楽体験・プロ
グラミング

開催回数 **42**回

②フリースクールキリンのとびら

相談件数 145件

在校人数 14人



支援者数 **145**名(世帯)

③オンラインフリースクール Clulu



在校人数 12人

相談件数 88件



支援者数 **88**世帯

④キリンフードパントリー(食材支援)

毎月 150 世帯への食材配布
長期休暇・年始年末の食材配達



支援世帯 **1,812**世帯

⑤フードバンク泉佐野

泉佐野市から運営委託を受け、SDGs を
推進する上で食品ロスの削減とともに、
必要とされる方へ食材をお渡しする事業



NPO法人キリンこども会 泉佐野

⑥こども朝食堂



2023年2~3月において泉佐野市の委託を
受け実証実験として8回開催。
泉佐野市立長坂小学校において、朝ごはんを
食べる環境・習慣のない子ども達の健全育成を
目的として運営。



メディア掲載回数

テレビ放送3回・新聞掲載13回・

Web 掲載210回・プレスリリース16件

①さのだい子ども食堂キリンの家

2018年7月に始めた「さのだい子ども食堂キリンの家」は、2022年で4周年を迎えることができました。運営当初は月に1度の開催でしたが、現在は月16回開催しています。利用登録している子ども達は、小学1年生～高校生まで166名に登り、学年別に開催することで全ての子ども達が定期的に利用できるよう工夫を行っています。



本年は229回開催し、延べ3,392人の子ども達が参加してくれました。

また、食事提供を通じた居場所創りだけではなく、こどもカフェCocchaを通じた職業体験、(公社)モリウミアス様と連携した調理体験、(公財)ソニー音楽財団様に補助をいただきクラシック音楽体験、(公財)日本財団様を通してソニー(株)様のプログラミング体験など、様々な体験活動を行うことができました。



子ども食堂の運営において私たちが大事にしていることは、食事提供を通じた「居場所創り」であり、居場所を通して子ども達がさまざまなチャレンジ事業や体験事業を行っています。

このような活動を通して、コロナ禍や家庭事情による体験格差を解消し、「自分もやればできる!」という自己肯定感を高められるよう活動しています。



1) こどもカフェ Coccha (職業体験)

居場所に通う中学生12名が中心となり、月1回開催するこどもカフェ Coccha を運営しました。新型コロナウイルスの影響で、中学校の職業体験は中止となり、体験機会が無くなった子ども達から出てきたアイデアを実現したものです。

こどもカフェ Coccha は、子ども達が調理・接客するだけではなく、メニュー考案やコスト管理、仕入れの見直しによるコスト削減まで実施しました。また地域のお店の方に「地域先生」としてお越しいただき、メニュー考案の仕方や接客方法などを教わりました。こどもカフェ Coccha は、地域の皆様にお越しいただき、世代間の交流機会となりました。

また、子ども達は目標であった「12人でディズニーランドに行く」という目標を達成することができました。本事業は、近畿ろうきん NPO アワード優秀賞を受賞いたしました。

一年間の活動を終えた子ども達のコメント



一年間、辛いと思った日もありました。でも、取り組むうちにキリンの家で挑戦させてもらっている事は当たり前じゃないことに気がきました。地域のみなさんの応援があり、大人スタッフがいてくれたから貴重な体験をすることが出来ました。ありがとうございました！



キリンの家で初めてのことをたくさん経験させてもらえました。夢を叶えるために自分達でチラシのデザインを考えて地域の方に配布し、来客数を増やすことができたときは本当に嬉しかったです！



2) (公社) モリウミアスとの連携事業 (調理体験)

宮城県石巻市にある公益社団法人 MORIUMIUS 様のプログラム全 11 回に参加しました。
このプログラムは、月に 1 度、旬の山の幸・海の幸をお送りいただき、オンラインで生産者の方と繋いでいただきながら、子ども達が包丁を持って調理する事業です。
新型コロナウイルス拡大後、学校での調理体験が無くなった子ども達は初めて持つ出刃包丁を慎重に使って調理していました。
また、オンラインで現地の生産者の方にさまざまな質問をできることを毎回とても楽しみにしていました。

一年間の活動を終えた子ども達のコメント



初めての経験がいっぱいでした！
嫌いな食材も自分で調理することで食べることができるようになりました！



始めは、知らないことがたくさんだったけど、次回の食材を調べて発表するのが楽しくなりました。
大人のスタッフの人にたくさん褒めてもらえたことがうれしかったです！



②フリースクールキリンのとびら

2021年11月に開校したフリースクールキリンのとびらは、さまざまな事情により、「学校に行けない」「行かない」「行きたくてもいけない」という選択をした子ども達が学ぶ場所であり過ごす場所として運営しています。

3月31日現在で14名の小中学生が在籍しており、希望する子ども達は所属校の出席扱いを受けています。これにより、不登校の子ども達にとって進学先の選択肢を広げることができています。



私たちは、フリースクールの活動を通して、子ども達の「やってみたい」という気持ちに対して常にアンテナを張り、さまざまな体験活動を実施してきました。

また、フリースクールに通っていない子ども達も一緒に過ごせる「とびらで会おう」の活動や、不登校の子どもを持つ保護者を対象とした「親の会」を開催しています。

<活動内容>

- ・小学生～高校生を対象に平日毎日10時～16時まで不登校支援事業を実施。
- ・不登校の子どもを持つ保護者を対象とした「親の会」を6回開催（2か月に1度）。
- ・行政や学校と協議・連携し、希望のあった11名について出席扱いの認定を受ける。
- ・学校、保護者、居場所の3者が連携し、子ども達をサポートする体制を構築。
- ・学校に行っていないことにより、多くの体験機会が失われているため、宿泊体験などさまざまな体験事業を実施。



1) 現代国際巨匠絵画展 (協力：(株)ぽるぷエーアンドアイ様)

「いつか、自分の個展をやりたいねん」

これは、フリースクールに通う中学2年生の絵を描くことが大好きな女の子が呟いた言葉でした。キリンのとびらは、子ども達の「やってみたいこと」という気持ちを大切にしています。フリースクールで繋がる子供たちは、得意なこと・苦手なことがはっきりしている子ども達も多く、今までは苦手な部分で苦しんできた子ども達です。だからこそ、得意なことで表現する・社会と繋がる機会が重要です。「絵を描くことが大好きな子ども達」の絵をカッコよく展示してあげたい！という思いで、(株)ぽるぷエーアンドアイ様に協力いただき、2月11～13日に現代巨匠絵画展を開催いたしました。ピカソやシャガール、東山魁夷といった現代巨匠の絵画とともに、子ども達の絵を額装して展示いたしました。有名画家の絵画はチャリティ販売もされ、たくさんの方がご来場・ご購入いただきましたことを改めて御礼申し上げます。

出展した子どもからの感謝メッセージ (レセプションパーティにて)



ミゲール・ペイドロ画伯と。



絵画展の開催にご協力いただいたみなさん、ありがとうございます。私は絵を書くことが大好きなので、出展できたことがうれしいです。絵画展の開催が決まったことを聞いたのは、去年の十月のことでした。聞いたときは、「できるかな」と不安な気持ちもありましたが、絵画展の出展に向けて、合計で15個の作品を書いて3作品を出展しました。いつも楽しんで自由に書いている絵が、期限が決まっていること、たくさんの人に見られることで、絵を書くことに苦しんだ時期もありました。

今、展示された自分の作品を見て、「もうちょっと上手く書けたんじゃないかな」とも思いますが、皆様に今の私の絵を見て頂きたいと思います。私は小さな時から、人と話すこと、絵を書くことが大好きでした。私にとってキヤンパスは、自分の個性を自由に表現できる世界です。

自分が楽しくて書き続けてきた絵。いつのまにか、自分の書いた絵を人に見てほしいという気持ちが生まれました。中学に入ったら、美術部に入ろうと思っていました。でも、小学6年の冬から、少しずつ学校に行くことができなくなりました。いろいろなことが重なった時期でした。それまでは気づかなかった、ストレスを感じることがありました。

そして、中学が上がってからは、ほとんど学校に行けなくなりました。お父さんとお母さんが、私の気持ちを理解してくれた事は私の救いでした。フリースクールキリンのとびらに通いだしたのは、中学1年生の12月でした。開校して1か月のタイミングで、まだ子どもが少なく寂しかったけど、スタッフ皆さんがとても優しく、通い続けることができました。

今は、子ども的人数も増えてにぎやかになり、とっても楽しい場所です。そして、変わらず、私にとって安心できる場所です。

今回、お越しいただいたミゲール・ペイドロさんをはじめ、ピカソ、シャガール、東山魁夷といったすごい皆さんとともに、私たちの絵が展示されること、本当に夢のようです。

私がオッチャンに言った「いつか自分の個展を開いてみたい」という夢。この夢である「個展」は、**私自身で叶えます。**

今回の絵画展は、夢への一歩目だと思っています。背中を押してくれたキリンのとびらのみなさん、そして会場にいらっしやる皆さん、本当にありがとうございました。



2) 音楽 FES Fill RECO FES 2022 への出演 (協力: 番匠谷紗衣様)

「将来はミュージシャンになるために、いつかは路上ライブをやりたい」

そんな夢を持っていたフリースクールに通う中学3年生のらむちゃん。

彼女の夢は、泉佐野市 PR 大使でもある番匠谷紗衣さんの音楽 FES に出演するという形で一步を踏み出しました。

2022 年 10 月 29 日に泉佐野市にあるりんくう野外文化音楽堂で開催された Fill RECO FES2022 に番匠谷紗衣さんと共にステージに立ち、Back number の「水平線」を熱唱しました。

自らも不登校経験があり、お忙しい中、何度もフリースクールに足を運んでいただいた番匠谷紗衣さんに改めて感謝申し上げます。

らむちゃんは、2023 年 3 月にフリースクールを卒業し、現在は高校に進学しています。

3 月 13 日にフリースクールの卒業式を行い、皆で送り出すことができました。



③オンラインフリースクール clulu (クルル)



大阪府により「NPO等活動支援による社会課題解決事業」に採択いただき、2022年10月1日にオンラインフリースクール Clulu を開校することができました。

同年5月～6月に実施いたしましたクラウドファンディングでは、318名の皆様に合計3,639,000円ものご支援をいただき、本当にありがとうございました。

3月31日現在、15名の子ども達が全国から毎日参加してくれています。

少しずつ出席扱いいただける学校も増え、新たな居場所として運営しています。



<活動内容>

- ・小学4年生～中学3年生を対象に平日毎日12時～16時まで不登校支援事業を実施。
- ・学習時間とともに、クラブ活動やサークル活動を通して社会性を育むよう支援を実施。
- ・オンライン相談会やオンライン親の会を実施し、広く保護者の方へのフォローを実施。

クルルの一日

開校	12:30～	(事務局)
朝の会	12:45～12:55	(事務局)
授業	13:00～13:40	(講師)
個別自習	13:40～14:00	(講師)
部活	14:10～14:55	(スタッフ)
終わりの会	14:55～15:00	(事務局)
放課後	15:15～15:45	(スタッフ)
閉校	～16:00	(事務局)

応援団

応援団

応援団

応援団

応援団

応援団

応援団

応援団

④キリンフードパントリー



本報告書の2ページのアンケート結果からも、日々の生活に苦勞している子育て世帯は増加している状況です。

キリンこども応援団では、昨年度に引き続き2022年度も毎月150世帯の子育て世帯に食材配布を実施いたしました。今年度は、毎月の配布に加えて夏休みなどの長期休暇中や公的機関が休みになる年始年末に食材配達を行い、合計1,812世帯への食材支援を実施いたしました。



<活動内容>

- ・泉佐野市、貝塚市、熊取町の子育て世帯150世帯に毎月食材配達を実施。(計1,650世帯)
- ・より支援が必要な家庭に対して、夏休みなどの長期休暇や公的機関がお休みになる年始年末に食材配達を実施いたしました。(計162世帯)
- ・より継続的な支援を実施するため、コミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)の設置を準備中。

利用者からいただいたメッセージ(一部)



ひとり親家庭です。この支援に何度も助けられました。手を差し伸べてくれる人がいることはとても心強いです。ありがとうございます。



現在、夫はいるのですが、生活費を入れてもらえなくなって一年半になります。そのため、ひとり親の助成も受けられず、私の少ない収入のみで生活しています。そんな時にフードパントリーの活動を知り利用させていただきとても助かりました。



⑤フードバンク泉佐野（市運営委託事業）



2022年8月から泉佐野市より運営委託を受け、フードバンク泉佐野の運営を開始いたしました。

フードバンク泉佐野は、SDGsを推進する上で食品ロスの削減とともに、食材の需要コーディネートを実施することを目的としています。

キリンこども応援団では、企業や個人の皆様からご寄付いただいた食材を地域の子ども食堂等に配布を実施するとともに新たな子ども食堂の立ち上げ支援を実施しています。



<活動内容>

・企業等からご寄付いただいた食材等の合計	<u>17.14 トン</u> (2022年8月～)
・子ども食堂等へお渡しした食材の合計	<u>14.54 トン</u> (2022年8月～)
・立ち上げ支援で新たに立ち上がった子ども食堂	2
・フードバンクに食材等の協力企業・団体	2 社・団体
・フードバンクの食材を活用している団体	4 団体

⑥こども朝食堂（市運営委託事業）

2022年2～3月において泉佐野市から運営委託を受け、長坂小学校においてこども朝食堂を実施しました（全8回）。

本事業は、家庭の事情で朝食を食べずに登校する児童へ食事を提供することにより、子どもの学習や成長を支えることを目的とした実証実験です。

キリンこども応援団では、毎回、温かくて美味しい食を手づくりすることを心掛けました。

食事提供だけではなく一つの居場所として活動しました。

<活動内容>（全8回）

- ・利用した児童数は延べ499人（実人数120人）
- ・アンケート結果では朝ごはんを食べた日は「授業に集中できる」「元気に過ごせる」と回答した児童が多数いました。





04 Annual Report

メンバーからのメッセージ

子どもたちに、温かいご支援をありがとうございます。
 フリースクールキリンのとびらは、子ども達があるのままの自分を大切にできる場所です。この場所を通し、子どもたちが再び笑顔を取り戻していききました。
 今後もどうかこの居場所が持つ力を信じ、見守り、応援いただけますよう宜しくお願い致します。



フリースクールキリンのとびら 責任者
 唐治谷三智子

「自分を理解してくれる人は必ずどこかに居る。」これは私が好きな言葉の一つです。地球には色々な人が居るのだから、自分のことを理解してくれない人は居て当たり前！そして自分を理解してくれる人もこれまた必ずどこかに居ます！子供達の良き理解者の一人として関わらせて頂けたら幸いです。



オンラインフリースクール Clulu 校長
 篠田 想

みんなで子育てできる環境を作りたい。応援してくれている人がいる、見守ってくれている人がいるよ！という想いを食材などと一緒にお届けしたいと思っています。ご寄付くださる企業や色々な方の想いと一緒に。ひとりじゃないよ、頼っていいよ。子どもにも大人にもあなたにも寄り添える活動を。これからもよろしくお祈りします！



フードバンク泉佐野 責任者
 川上智子

2022 年度も皆様の応援があり、子ども達の体験学習など様々な充実した活動をする事ができました。これからも子ども達が様々な事情で落ち込んだり学校に行けなくなった時に、子どもも親も安心出来る居場所創りに取り組んで参ります。今後ともご協力よろしくお祈り致します。



事務局長/MORIUMIUS 担当
 竹田佐織

みなさんの温かいご支援のおかげにより、2022 年もキリンの家は子ども達にとっていつもの場所として、そして泣きたい時、うれしい時、相談したい時にも行ける居場所として活動することができました。ありがとうございます。これからも皆さんの想いと自分達の想いを合わせて必ず子ども達の居場所づくりに繋げて行きます。



さのだい子ども食堂キリンの家 責任者
 井伊 唯

いつも応援いただき、ありがとうございます。フリースクールキリンのとびらの活動を通して、多くの不登校の子ども達や悩んでいる保護者の方と繋がる機会をいただきました。これからもこの輪が広がり、居場所を必要とされている方と繋がっていききたいと思います。これからもご支援をお願いいたします。



フリースクールキリンのとびらスタッフ
 佐野彩記子

【4月から新たな仲間を迎えました！】
 4月から採用いただき、職員として活動しています！
 こどもたちの笑顔のために常に全力で楽しみ
 お兄ちゃんのような存在であれるよう日々過ごしています。
 子ども達の目線に立ち、寄り添うことで頼ってもいいんだと思える居場所作りを目指します！



フリースクールキリンのとびらスタッフ
 太田貴之

令和4年度 活動計算書

令和4年4月1日から 令和5年3月31日

(単位: 円)

科 目	特定非営利活動 に係る事業		合計
	(非収益事業)	(収益事業)	
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	50,000		50,000
賛助会員受取会費	39,000		39,000
2 受取寄付金			
受取寄付金	5,493,853		5,493,853
協賛金収入			0
3 受取補助金			
受取地方公共団体等補助金	27,378,746		27,378,746
4 事業収益			
物販収入		599,725	599,725
受託収入		10,449,780	10,449,780
青少年育成支援事業収益	6,185,659		6,185,659
5 その他収益			
雑収益(購読料)	21,580		21,580
受取利息		120	120
経常収益計	39,168,838	11,049,625	50,218,463
II 支出の部			
1 事業費			
① 人件費			
給料手当	3,307,697	3,310,623	6,618,320
臨時雇賃金	0		0
人件費計	3,307,697	3,310,623	6,618,320
② その他経費			
旅費交通費	1,357,862		1,357,862
通信運搬費	215,754		215,754
消耗品費/事務用品	625,155		625,155
印刷製本費	83,505		83,505
保険料	14,935		14,935
謝礼金	526,000		526,000
雑費	201,855		201,855
活動費	3,387,893	6,396,552	9,784,445
賃借料/地代家賃	766,300		766,300
光熱費	251,468		251,468
外注費	3,648,025		3,648,025
広告費	59,280		59,280
交際費	800		800
支払手数料	880,119		880,119
減価償却費	43,511	69,486	112,997
その他経費計	12,062,462	6,466,038	18,528,500
事業費計	15,370,159	9,776,661	25,146,820
2 管理費			
① 人件費			
役員報酬	4,724,000	2,016,000	6,740,000
給料手当	129,150		129,150
法定福利費	1,170,790		1,170,790
通勤交通費			0
福利厚生費			0
人件費計	6,023,940	2,016,000	8,039,940
② その他経費			
会議費	81,830		81,830
旅費交通費	204,757		204,757
印刷製本費			0
通信運搬費	225,696		225,696
消耗品費/事務用品	85,583		85,583
賃借料			0
交際費	74,121		74,121
支払手数料	332,368		332,368
保険料			0
租税公課	4,817		4,817
謝礼金	51,500		51,500
雑費	26,120		26,120
減価償却費	44,752		44,752
その他経費計	1,131,544	0	1,131,544
管理費計	7,155,484	2,016,000	9,171,484
経常費用計	22,525,643	11,792,661	34,318,304
当期経常増減額	16,643,195	-743,036	15,900,159
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額	16,643,195	-743,036	15,900,159
法人税、住民税及び事業税		80,000	80,000
当期正味財産増減額	1,216,150	-823,036	15,820,159
一般正味財産期首残高			12,298,560
一般正味財産期末残高			28,118,719

07 Annual Report お願いしたいこと

お金の寄付

NPO法人は利益を上げることが目的としていませんが、スタッフを雇用し、取引先にお支払いし、居場所の家賃をお支払いするのは一般企業と同じです。そして、赤字では持続的な活動を行うことはできないことも同じです。

2022年度、キリン子ども応援団の活動資金は、助成金が大半を占めています。

しかし、助成金は不確定要素が高く、また使途が定められているため、将来を見越した人材育成や長期的な活動計画を立てることが難しい状況です。

そのため、活動を継続していくためには、助成金に依存しない体制を構築することが急務であり寄付金を通して活動を応援いただける皆様に募集しています。

ぜひ、この活動が地域の子どものために必要だとご理解いただき、活動継続のためご寄付をお願いいたします。賜りましたご寄付はしっかり子ども達や子育て世帯のために使用することをお約束いたします。



3,000円で子ども食堂の一日分の食材費となります

毎月の寄付（1,000円～）

1回ずつの寄付

※毎月のニュースレターや見学会・報告会などをご案内させていただきます。
※直接の口座お振込みも対応可能です。ご希望の際は、ご連絡ください。



食品の寄付

フードバンク泉佐野では、缶詰やレトルト食品、お米などの常温保存食品、ソーセージなどの加工品、お惣菜などの冷蔵・冷凍食品、規格外のお野菜や果物などを募集しております。

※加工食品（乾麺、調味料、インスタント食品、お菓子）など未開封で賞味期限まで1か月以上あるものご寄付いただいた食材は、子ども食堂キリンの家だけではなく、泉佐野市内の子ども食堂にもお渡しします。

住所：〒598-0013 大阪府泉佐野市中町3丁目4番25号

宛先：フードバンク泉佐野

TEL：072-496-8372

情報の拡散

残念ながら、NPO法人がどのような活動を行っている団体であるのかが浸透していない現状があります。

ぜひ「キリン子ども応援団は、しっかり活動しているNPO団体だよ!」とご家族・ご友人にご紹介ください。ホームページのほか、FacebookやInstagramでも日々の活動について情報発信しています。



NPO法人

キリン子ども応援団

～子ども達が未来に踏み出せる場所を創造する～

TEL : 072 - 475 - 6364 E-mail : kirinkodomo.soumu@gmail.com

Head office 大阪府泉佐野市鶴原 820-9 (〒598-0071)

